

Dialog

File 345:Inpadoc/Fam.& Legal Stat 1968-2002/UD=200220
(c) 2002 EPO

Set	Items	Description
---	-----	-----
?S	PN=JP 57212567	
S1	1	PN=JP 57212567
?T	1/39	

1/39/1
DIALOG(R)File 345:Inpadoc/Fam.& Legal Stat
(c) 2002 EPO. All rts. reserv.

4052643
Basic Patent (No,Kind,Date): JP 57212567 A2 821227 <No. of Patents: 002>
Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applic No	Kind	Date	
JP 57212567	A2	821227	JP 8198587	A	810625	(BASIC)
JP 84008854	B4	840228	JP 8198587	A	810625	

Priority Data (No,Kind,Date):
JP 8198587 A 810625

PATENT FAMILY:
JAPAN (JP)

Patent (No,Kind,Date): JP 57212567 A2 821227
READ DATA PROCESSING SYSTEM (English)
Patent Assignee: FUJITSU LTD
Author (Inventor): KOSHIDAKA TERU; KAMATA HIDEO
Priority (No,Kind,Date): JP 8198587 A 810625
Applic (No,Kind,Date): JP 8198587 A 810625
IPC: * G06F-015/20; G06K-007/00
JAPIO Reference No: * 070070P000030
Language of Document: Japanese
Patent (No,Kind,Date): JP 84008854 B4 840228
Priority (No,Kind,Date): JP 8198587 A 810625
Applic (No,Kind,Date): JP 8198587 A 810625
IPC: * G06F-015/20
Language of Document: Japanese

?LOGOFF

28may02 12:10:19 User262852 Session D272.3
Sub account: 47171-00219
\$0.81 0.168 DialUnits File345
\$10.55 1 Type(s) in Format 39
\$10.55 1 Types
\$11.36 Estimated cost File345
\$0.21 SPRNTNET
\$11.57 Estimated cost this search
\$18.46 Estimated total session cost 0.560 DialUnits

Dialog

File 351:Derwent WPI 1963-2001/UD,UM &UP=200233

(c) 2002 Thomson Derwent

*File 351: Please see HELP NEWS 351 for details about U.S. provisional applications.

Set	Items	Description
---	-----	-----
?S PN=JP 57212567		
S1	0	PN=JP 57212567
?S PN=JP 82212567		
S2	0	PN=JP 82212567
?B345		
		28may02 12:09:36 User262852 Session D272.2
		Sub account: 47171-00219
		\$6.41 0.248 DialUnits File351
\$6.41		Estimated cost File351
\$0.43		SPRNTNET
\$6.84		Estimated cost this search
\$6.89		Estimated total session cost 0.392 DialUnits

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭57—212567

⑤ Int. Cl.³
G 06 F 15/20
G 06 K 7/00

識別記号

庁内整理番号
7165—5B
6419—5B

⑬ 公開 昭和57年(1982)12月27日

発明の数 1
審査請求 有

(全 5 頁)

⑭ 読取データ処理方式

① 特 願 昭56—98587

② 出 願 昭56(1981)6月25日

⑦ 発 明 者 腰高輝

川崎市中原区上小田中1015番地
富士通株式会社内

⑧ 発 明 者 鎌田英夫

川崎市中原区上小田中1015番地
富士通株式会社内

⑩ 出 願 人 富士通株式会社

川崎市中原区上小田中1015番地

④ 代 理 人 弁理士 山谷皓榮

明 細 書

1. 発明の名称 読取データ処理方式

2. 特許請求の範囲

(1) 複数の被読取体を順次読取つて各被読取体に記憶されたコードをこの被読取体の最先端のヘッダーカードの基準コードと照合し、照合が一致したとき被読取体に記憶されたデータを処理するOCR読取処理装置において、上記基準コードと異なる伝管コードを記憶する記憶手段と、上記基準コードと異なるコードを有する被読取体に記憶されたデータを上記伝管コードを記憶した伝管ヘッダーカードの読取りにより上記照合を行わずに上記処理に連続して処理させる処理手段を具備し、基準コードと一致するコードを有する被読取体は照合をとつて上記データ処理をし、基準コードと一致しないコードの被読取体のデータは上記記憶手段に保持した伝管コードと上記伝管ヘッダーカードの伝管コードが一致したとき読取られ上記照

合したときの処理に連続して処理されることを特徴とする読取データ処理方式。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、読取データ処理方式に関するものであつて、例えば保険会社の営業所においては外務員の集金回および集金件数を外務員を識別するヘッダーカードおよびそれに対応する入金票にもとづいてOCR装置により算出するものにおいて、一時的に他の外務員の代りに集金した分を自己の集金回および集金件数として計算する場合に他の外務員の口々の入金票を使用して簡単に処理できるようにしたものに関する。

例えば生命保険料は、集金を専任にする外務員により、払い込み期間単位毎にその都府県別金回分集金されていることが多い。この際外務員が保険料を収取する契約者はあらかじめ定められているので、外務員コードや契約保険証券番号、契約金回分はあらかじめコンピュータセンターのファイルに記憶されており、これらがデータ処理装置に

より印刷された入金票が作成されている。外務員はこの入金票を持って契約者の所に行き、集金している。ところで、外務員の給料は歩合制であるため、自ら集金した集金金口および集金件数が給料算定の基礎にされる。そこで、外務員 α_n が自分の担当の1カ月分の集金を終ると、営業所では図1図に示すように外務員 α_n の1カ月分の入金票 b_1, b_2, \dots, b_d を積み重ね、さらに最上部の入金票 b_d の上にヘッダーカード α_n を重ねる。このヘッダーカード α_n は、この下にある入金票 b_1, b_2, \dots, b_d が自分の集金分に属するものであることを示すものであつて、外務員ヘッダーカード識別コードと外務員コードが記入されている。この外務員 α_n の最下部の入金票 b_d の下には外務員 α_{n-1} のヘッダーカード α_{n-1} を介して外務員 α_{n-1} の入金票 b'_1, b'_2, \dots, b'_d が順次重ねられ、以下同様に外務員 $\alpha_{n-2}, \alpha_{n-3}, \dots, \alpha_1$ の入金票がヘッダーカードを介して順次重ねられる。

そして例えば外務員 α_n のヘッダーカード α_n について入金票 b_d, \dots, b_1 がOCRにより脱取られ、こ

れはOCRが外務員 α_{n-1} のヘッダーカード α_{n-1} を脱取るまで続けられる。この間脱取られた入金票にもとづいて、保険料および配当金の加減算とともに件数の加算が行われる。この際ヘッダーカード α_n の外務員コードと入金票の外務員コードは逐一照合されて、他の外務員コードを記載した入金票が混つていないかどうかチェックされ、混じつていればこれをとり除く。このようにしてチェックされて求められた集金額および件数が外務員 α_{n-1} のヘッダーカード α_{n-1} の脱取りにより出力される。以下同様に外務員 $\alpha_{n-1}, \alpha_{n-2}, \dots, \alpha_1$ についても上記と同様の集金額および件数が求められ、これらにもとづいて各外務員の歩合給料が算定される。

ところが、例えば外務員 α_{n-1} が一時的に休職をとつた場合、例えば外務員 α_n が集金を代行したとすると、外務員 α_{n-1} の入金票は外務員 α_{n-1} が集金するものとして脱取られるため、これを外務員 α_n の集金分として演算し、代行した集金分に見合った歩合を支給しなければならぬ。そこで、従

来このような場合に、外務員 α_{n-1} の入金票にマークを付与し、外務員 α_n の入金票に重ねて脱取らせる。このマークにより外務員変更があつたことを検知してOCR装置は、これらの入金票を外務員 α_n の分として演算している。しかしながらこのような方法では、OCR装置にOMR機能を追加する必要がある、かつ外務員 α_{n-1} の入金票が多くなれば、これらの入金票の1枚1枚に外務員変更を示すマークを記入するのは時間がかかる。

したがって本発明は、以上のように、従来、給料計算のために入金票の所口変更があつたとき、変更した入金票にマークを付すことにより時間がかかつた問題を改善するために、変更分の入金票を伝管ヘッダーカードにより一括処理できるOCRデータ処理方式を提供するものである。そのため本発明の脱取データ処理方式は、複数の被脱取体を1次OCRで脱取つて各被脱取体に記憶されたコードをこの被脱取体の最上層のヘッダーカードの基準コードと照合し、照合が一致したとき被脱取体に記憶されたデータを処理するOCR

脱取処理装置において、上記基準コードと異なる伝管コードを記憶する記憶手段と、上記基準コードと異なるコードを有する被脱取体に記憶されたデータを上記伝管コードを記憶した伝管ヘッダーカードの脱取りにより上記照合を行わずに上記処理に迂回して処理させる処理手段を具備し、基準コードと一致するコードを有する被脱取体は照合をとつて上記データ処理をし、基準コードと一致しないコードの被脱取体のデータは上記記憶手段に保持した伝管コードと上記伝管ヘッダーカードの伝管コードが一致したとき脱取られ上記照合したときの処理に迂回して処理されることを特徴とする。

次に本発明の一実施例を図2図および図3図にもとづいて説明する。

図2図は本発明の一実施例に使用される被脱取カードの脱取状態を示す図、図3図はその一実施例の回路構成図である。

図中、01は伝管ヘッダーカード、1はOCR、2はデータ入力レジスタ、3は外務員ヘッダーカ

ード識別レジスタ、4は第1照合回路、5はアンド回路、6は外務員コードレジスタ、7は外務員コード照合演算回路、8はフロッピーディスク、9は伝管ヘッダーカード識別レジスタ、10は第2照合回路、11はフリップフロップである。伝管ヘッダーカード02は、他の外務員に代行して集金した入金票を自分の集金分として脱取するための所属変更識別カードであつて、伝管ヘッダーカード識別コードが記憶されている。この伝管ヘッダーカード02は、第2図に示すように外務員00の入金票の後に挿入され、このカードの後に外務員00が外務員00-1に代つて集金した入金票が重ねられている。OCR1は、ヘッダーカード、伝管ヘッダーカードおよび入金票を光学的に走査して脱取り、その識別結果を2進コードとした脱取りデータを出力するものである。データ入力レジスタ2は、上記脱取りデータを一時保持するものであつて、エリア0~0+2には、外務員ヘッダーカード、伝管ヘッダーカード又は入金票のカード識別コードが保持される。また、エリア0+4~

0+6には、外務員ヘッダーカード又は入金票の外務員コードが保持され、エリア0+7~0+mには、入金票の保険料および配当金の金額、件数のデータが保持される。

外務員ヘッダーカード識別レジスタ3は、外務員ヘッダーカードを識別するためのものであつて、外務員ヘッダーカードのヘッダーカード識別コードを照合する被照合コードが記憶されている。

第1照合回路4は、各々の外務員ヘッダーカードのヘッダーカード識別コードをそれぞれの該当する被照合コードと照合するものであつて、照合が一致したとき「1」を出力する。

アンド回路5は、上記第1照合回路4が「1」を出力したとき、データ入力レジスタ2の外務員コードを外務員コードレジスタ6に保持する。

外務員コードレジスタ6は、データ入力レジスタ2に保持される各々の外務員ヘッダーカードに記憶された外務員コードを保持するものである。

外務員コード照合演算回路7は、入金票の外務員コードと上記外務員コードレジスタ6に保持さ

れた外務員コードとの照合をとり、一致したときに入金票にもつづく金額および件数のデータ演算を行うものである。

フロッピーディスク8は、上記演算結果を記憶するものである。

伝管ヘッダーカード識別レジスタ9は、伝管ヘッダーカードを識別するためのものであつて、伝管ヘッダーカード識別コードを照合する被照合コードが記憶されている。

第2照合回路10は、伝管ヘッダーカードから脱取つたカード識別コードを上記伝管基幹コードと照合するものであつて、照合の結果一致したとき第2照合回路10から「1」を出力してフリップフロップ11をセットさせる。

フリップフロップ11は、上記外務員コード照合演算回路7の照合を各略印刷するものであつて、上記のようにセットされたときこの各略を行わせ、上記第1照合回路4の出力「1」によりリセットされて、上記各略を解除する。

次に第3図に示す本実施例の動作を説明する。

まず、第2図に示す外務員00のヘッダーカード00がOCR1に脱取られ、データ入力レジスタ2の例えばエリア0~0+2にヘッダーカード識別コード、エリア0+4~0+6に外務員コードが保持される。このとき外務員ヘッダーカード識別レジスタ3に保持されたヘッダーカード識別コードと上記脱取つたヘッダーカード識別コードが一致することにより第1照合回路4が「1」を出力する。これによりアンド回路5から上記外務員コードが外務員コードレジスタ6に保持される。ついで入金票04がOCR1で脱取られ、外務員コード、金額および件数データが外務員コード照合演算回路7に伝送され、ここで外務員コードレジスタ6に保持されている外務員コードデータと照合された後金額、件数データの演算が行われる。以下同様に入金票04-1、...、0、について逐一外務員コードを照合した後上記演算が行われる。次に伝管ヘッダーカード02 OCR1により脱取られると、データ入力レジスタ2のエリア0~0+2に伝管ヘッダーカード識別コードが保持される。それから、上記

読取った伝管ヘッダーカード識別コードと伝管ヘッダーカード識別レジスタ9に保持された被照合コードが第2照合回路10により比較されるが、両者が一致したことによりこの第2照合回路10は「1」を出力し、これによりフリップフロップ11はセットされ、この出力が外務員コード照合演算回路7に伝送される。これにより外務員コード照合演算回路7は、データ入力レジスタ2から外務員 a_{n-1} の外務員コードが伝送されてきててもその照合を省略する。それ故、次に入金票 b'_i が読取られて外務員コード、金口および件数データがデータ入力レジスタ2に保持されたとき、外務員コード照合演算回路7は、外務員コードの照合を省略しているの、その照合の不一致にかかわらずこの入金票を外務員 a_n 分として金口、件数の演算を続行する。以下同様に b'_{i-1}, \dots, b'_1 の入金票の金額、件数にもとづいて上記演算が行われる。そして新たに外務員 a_{n-1} のヘッダーカード a_{n-1} でOCR1に読取られて外務員ヘッダーカード、外務員コードがデータ入力レジスタ2に保持され、

上記外務員 a_n の場合と同様に外務員ヘッダーカードが一致することにより次の外務員コードがアンド回路5から伝送され、外務員コードレジスタ6に保持される。このとき、上記第1照合回路4の「1」により上記演算結果がフロッピーディスク8に伝送され、ここに記憶される。また、この第1照合回路4の「1」によりフリップフロップ11はリセットされ、これにより上記外務員コード照合演算回路7の照合が再開される。この状態で入金票 b'_i が読取られると上記入金票 b'_i と同様に外務員コードの照合がなされた後、金額および件数についての演算が行われる。以下同様にして b'_{n-1}, \dots, b'_1 について金額および件数の演算が行われ、これが外務員 a_{n-2} のヘッダーカード a_{n-2} がOCR1により読取られるまで続き、このヘッダーカード a_{n-2} の読取りにより演算結果をフロッピーディスク8に出力する。以下外務員 a_{n-3}, \dots についても同様にして入金票にもとづく金額および件数が算出され、これらがフロッピーディスク8に記憶される。そしてこれらのデータにもとづいて給料

が算定される。

以上説明したように、前記本発明によれば、外務員コードを照合しながら入金票のデータを処理する場合に、他の外務員に代つて算出した分の入金票を自己の入金票として処理するため、伝管ヘッダーカードを破け、これを読取らせて処理させたので、上記代行して算出した他人の入金票の1枚1枚にOMR用マークを付す必要がなく、作業能率を向上することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は従来の被読取体の読取られる状態を示す図、第2図は本発明の一実施例に使用する被読取体の読取られる状態を示す図、第3図はこの実施例の回路構成図である。

図中、 a_n, a_{n-1}, \dots, a_1 は外務員、 $b_d, \dots, b_{d-1}, \dots, b_1, b'_d, b'_{d-1}, \dots, b'_m, \dots, b'_{m-1}, \dots, b'_1$ は入金票、 a_n, a_{n-1}, \dots は外務員ヘッダーカード、 a_d は伝管ヘッダーカード、1はOCR、2はデータ入力レジスタ、3は外務員ヘッダーカード識別レジスタ、4

は第1照合回路、5はアンド回路、6は外務員コードレジスタ、7は外務員コード照合演算回路、8はフロッピーディスク、9は伝管ヘッダーカード識別レジスタ、10は第2照合回路、11はフリップフロップである。

特許出願人 富士通株式会社
代理人 弁理士 山谷 晴 榮

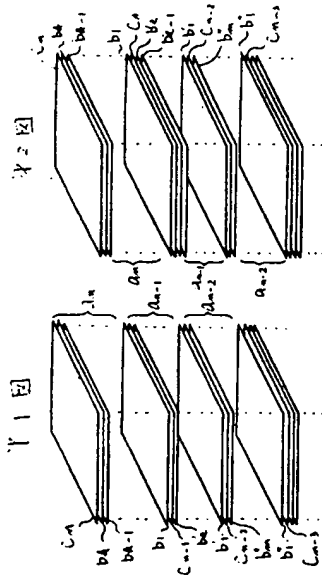


図 3

